

適性検査練習帳 記述・作文問題編

〈はじめに〉

本書は、公立中高一貫校適性検査の国語分野における記述・作文問題対策を主目的として書かれたものですが、基礎的な国語学習から私国立中学受験対策に至るまで、幅広く活用していただけるようになっていきます。

正しく的確な文、文章を書く力を身につけることは、国語力を伸ばすだけでなく、培われた表現力は、将来さまざまな場面で活かされることと思います。

本書を十二分に活用されて、書く力を身につけ、ひいては総合的な日本語能力に磨きをかけていかれることを願っています。

目次

第1章 文を書く

- (1) 文とは何か……………3
- (2) 「である」調で書く……………4
- (3) 主語と述語が正しく対応した文を書く……………5
- (4) 読点(、)を適切に使った文を書く……………6
- (5) 意味のはっきりした文を書く……………8
- (6) 指定された語を用いて短文を作る……………9
- (7) 一文にまとめる……………10
- (8) 正しい表現で書く……………11

第2章 文章を読み取って書く

- (1) 指示語をとらえる……………14
- (2) 登場人物の気持ちをとらえる……………18
- (3) 表現の工夫をとらえる……………41
- (4) 論理の展開をとらえる……………56
- (5) 文章を要約する……………74

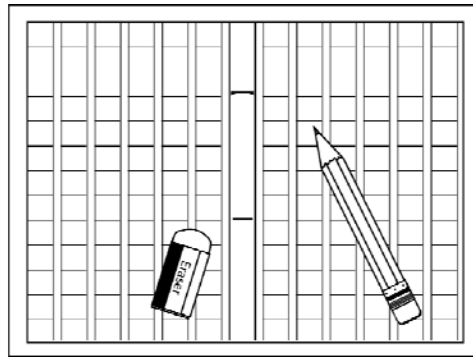
第3章 作文を書く

- (1) どんなテーマが出されているのか……………85
- (2) 設問の条件を守る……………94

第4章 総合演習……………121

解答例……………145

第1章
文を書く



(1) 「文」とは何か

「文」とは、一つのまとまった内容(内容)を言い表した、ひと続きの言葉で、句点(。)、疑問符(？)、感嘆符(！)で区切られています。(会話文などで「」を使う場合、最後に句点(。))をつけられないことがあります。

「文」がいくつか集まったものが「文章」です。

次の文章は、いくつの文で成り立っているでしょうか。数えてみましょう。

雲は、何からできているのでしょうか？ その正体は、小さい水てきや、氷のつぶの集まりです。

水じょう気は、水がじょう発して気体になったものですか、目には見えません。その見えない水じょう気が、上空にあがって、冷やされると、ふたたび水てきになったり、氷のつぶになったりします。これは、氷を入れたコップのまわりに水てきがついて、くもってくるのと同じことです。

水てきや氷のつぶは、太陽の光を反しやするので、白い雲として見る事ができるのです。

「？」が一つ、「。」が五つあり、全部で六つの文で成り立っています。

* 次の文章では、文の終わりに「。」がぬけています。第一文の例にしたがって、適切な位置に「。」を書きましよう。

▽ 解答例は P 145

では、雲は、どうやってできるのでしょくか雲ができてには、

水じょう気をふくんだ空気が、上空にあがって、冷やされる必要があります空気は、暖められると上しようしますちようど、熱気球が上空へあがるのと同じ原理ですこのようなときは、もこもことした積乱雲(せきらんうん)のような雲ができますまた、暖かい空気と冷たい空気がせつしたとき、すぐにはまじり合わないで、さかい目を作りますここで、冷たい空気の方が暖かい空気よりいきおいが強い場合、冷たい空気が暖かい空気をおし上げながら、下にもぐりこんで進みます急げきにおし上げられた空気は、冷えて積乱雲をつくりまます積乱雲は、たてに成長した、はばがせまい雲なので、大つぶのはげしい雨をふらせまます

(2) 「である」調で書く

記述・作文問題においては、「です・ます」調よりも「である」調で書く方が望ましいとされています。
まずは、「です・ます」調と「である」調のちがいを理解しましょう。

〔例〕あれが学校です。 (「です・ます」調)

あれが学校である。 (「である」調)
あれが学校だ。 (「である」調)

〔例〕ぼくは学校へ行きます。 (「です・ます」調)

ぼくは学校へ行く。 (「である」調)

*次の文を「である」調に書き直しましょう。

① 私の夢は、外国で働くことです。

▽解答例はP 145

② ぼくの家は四大家族です。

③ 毎日、少しずつ本を読むことにしています。

④ 昨日はおそくまで勉強をしていました。

⑤ 大切なことですから、じっくりと考えることにします。

⑥ この様子ですと、明日は朝から雨がふるでしょう。

(3) 主語と述語が正しく対応した文を書く

ぼくがねぼうしたのは、目覚まし時計をかわすれた。

右の文は、日本語としておかしいですね。なぜおかしいかというと、「ねぼうしたのは」という主語と「かわすれた」という述語がうまく対応していないからです。(このような文を「ねじれ文」といいます。)

たとえば次のように書き直すと、正しい日本語となります。

ぼくがねぼうしたのは、目覚まし時計をかわすれたからだ。

このように、文を書くときは、主語と述語を正しく対応させることに注意しなければなりません。

*次の文は、日本語としておかしい文になっています。正しい日本語になるように書き直しましょう。(直す部分が最小限となるようにしましょう。)

▽解答例はP 145

① 私の日課は、三十分ほど散歩をする。

② まちがえたのは、問題をよく読んでいなかった。

③ ぼくは、くだものの中ではみかんが一番おいしい。

④ たんぱく質しつが多い食物は、肉類や大豆などに多くふくまれている。

(4) 読点(、)を適切に使った文を書く

せっかく苦労して十キロメートルの山道を登り山頂に着いたのに雨がふっていてお弁当が食べられなかった。

右の文くらいの長さになると、間に読点(、)が入っていないと、読みにくい文になってしまいます。

そこで、「\」の」という接続語的なことばのあとに読点(、)を打つと、読みやすくなります。

せっかく苦労して十キロメートルの山道を登り山頂に着いたのに、雨がふっていてお弁当が食べられなかった。

記述・作文問題においては、読み手(採点者)が読みやすい文を書くように心がけましょう。

長めの文なのに読点(、)が一つもなかったり、必要以上に読点(、)が多かったりすると、文章全体の印象が悪くなっています。

また、ひらがなばかりが続いてしまうと、区切りがわかりにくく、読みにくさにつながりますので、なるべく漢字を使うか、適切な場所に読点(、)を打つことで、読みやすい文を書くようにしましょう。

* 「例」にならって、次の文の適切な位置に読点(、)を一つ打ちましょう。

▽解答例はP 145～146

「例」予定より早く着くことができたのだからゆっくり休んでいることにしよう。

① 何とか今日中に宿題を終わらせようと思っていたがなかなか時間がとれなくて終わらせられなかった。

② 父は早朝から千葉のゴルフ場に出かけており母は銀座のデパートに夏用の衣服を買いに出かけている。

③ もし当日の朝七時の時点で雨がふっていたら運動会は三日後の水曜日に延期されるらしい。

母親は楽しそうに遊んでいる子どもを見ていた。

右の文は、楽しそうであるのが母親であるのか、子どもであるのかはつきりせず、二つの意味にとることができます。

このような場合、読点（、）を打つことで、意味をはつきりさせることができます。

楽しそうなのが母親の場合、次のようになります。

母親は楽しそうに、遊んでいる子どもを見ていた。

楽しそうなのが子どもの場合、次のようになります。

母親は、楽しそうに遊んでいる子どもを見ていた。

記述・作文問題においては、意味がはつきりしない文を書く^{びやく}と、減点対象^{げんてんたいしょう}となってしまいます。適切な位置^{しきあたりのちい}に読点（、）を打つことで、意味がはつきりし、読みやすい文となります。

*次の文は、ア・イの二通りの意味にとれます。それぞれの意味になるように、適切な位置に読点（、）を打ちましょう。

▽解答例はP 146

④ 兄はあわててにげる弟を追いかけた。

ア あわてているのが兄の場合

イ あわてているのが弟の場合

⑤ 茶色い目のかわいいぬいぐるみをもらった。

ア 目が茶色い場合

イ ぬいぐるみが茶色い場合

(5) 意味のはっきりした文を書く

私はすぐにかれが帰るのに気づいた。

右の文は、二つの意味にとることができません。「すぐに」という語が、「帰るのに」に係っているのか、「気づいた」に係っているのか、はっきりしないからです。(つまり、すぐに帰ったのか、すぐに気づいたのか、どちらなのかわからないということです。)

このように、ことばの係り受けが不明確な文をさけるためには、修飾語を修飾される語の近くに置くことよいでしょう。

たとえば、右の文を「私はすぐに気づいた」という意味にしたい場合は、次のように語順を変えます。

私はかれが帰るのにすぐに気づいた。

「すぐに」という修飾語を「気づいた」という修飾される語の直前に置いたことにより、文の意味がはっきりしましたね。

また、「かれがすぐに帰る」という意味にしたい場合は、次のようになります。

私はかれがすぐに帰るのに気づいた。

「すぐに」という修飾語を「帰るのに」という修飾される語の直前に置いたことにより、文の意味がはっきりしました。

* 次の文を指示されたように、語順を変えて書き直しましょう。

▽ 解答例は P 146

① 私は夕食後に宿題をしなさいと母に言われた。

(言われたのが夕食後であることがはっきりするように)

② 大きなかばんを持った男が向こうから歩いてくる。

(男が大きいということがはっきりするように)

③ 弟はいつも外へ遊びに行く兄についていく。

(ついていくのがいつもであることがはっきりするように)

(6) 指定された語を用いて短文を作る

短文作りの問題では、指定された語の意味を正しくとらえることはもちろんですが、加えて、主語・述語の整った、一読して内容がとらえられるような文を書くように心がけましょう。

〔例〕「心もとない」という語を用いて短文を作りささない。

〔解答例〕

× 友人の心もとない言葉に、私はとても傷ついた。

↓ 「心もとない」という語の意味に合った用い方がされていません。この例文では「心ない」が適切です。

△ 心もとないので、ぼくがついて行くことにした。

↓ 何が心もとないかがわからず、「心もとない」という語の意味が十分に表されていません。

○ 弟だけでは心もとないので、ぼくがついて行くことにした。

↓ 「安心できない」という「心もとない」の意味がよく表された例文となっています。

* 次の語を用いて短文を作りましょう。(語の形を変えてもよい。)

▽ 解答例はP 146

① くやいなや

② そそくさと

③ にわか

④ たしなめる

(7) 一文にまとめる

家を出るのがおそくなった。だから、電車に乗りおくれた。

右の二文を一文にまとめると、次のようになります。

家を出るのがおそくなったから、電車に乗りおくれた。

限られた字数の中で内容的にうまくまとまった文章を書くためには、ときに一文にまとめることも必要です。

では、次の二文を一文にまとめてみましょう。

きゅうりはきれいだ。なぜなら、青くさいからだ。



きゅうりは青くさいからきれいだ。

この場合、「青くさいからきゅうりはきれいだ。」としてもかまいません。

一文にまとめるときは、自然な日本語になるように、ことばの順番などを考えましょう。

*次の二文を一文にまとめましょう。

▽解答例はP 146

① 窓を開けた。すると、庭に雪が積もっていた。

② 賛成が三十五票、反対が五票だった。よって、議案は可決された。

③ 一人ひとりがルールを守る。それが大切だと思う。

④ お使いに行かなくてはいけない。宿題もしなくてはいけない。

(8) 正しい表現で書く

・かなづかい

特に、「一つずつ」「うなづく」「気づく」「ちぢむ」などに気をつけましょう。

・漢字表記とひらがな表記

ひらがなが多いと読みにくい(意味がとらえにくい)ですし、字数制限の問題もあるので、習った漢字はなるべく使うようにしましょう。また、文章を読んで答える場合、本文中に漢字で書かれているものは、そのまま漢字で書くようにしましょう。

「言う」については、漢字で書く場合とひらがなで書く場合があるので注意が必要です。

君が言うことはよくわかる。
カナダという国を知っていますか。

・意味が重複する表現をさける

たとえば、「いちばん最後」という表現は、「最」が「最も、いちばん」という意味なので、同じ意味のことをばを重ねてしまっていることになりす。

このような重複表現には、ほかに次のようなものがあります。

- × 後で後悔する ↓ ○ 後悔する (後でくやむ)
- × 過半数をこえる ↓ ○ 過半数に達する (半数をこえる)
- × 三十分間の間 ↓ ○ 三十分間 (三十分の間)
- × はっきり断言する ↓ ○ 断言する

× 犯罪を犯す

↓ ○ 罪を犯す

× 被害をこうむる

↓ ○ 被害を受ける

× 不快感を感じる

↓ ○ 不快に感じる (不快感を覚える)

× 返事を返す

↓ ○ 返事をする

× まだ未定

↓ ○ 未定

・慣用表現

次の慣用表現はまちがえやすいので気をつけましょう。

- × 明るみになる ↓ ○ 明るみに出る
 - × いや気がする ↓ ○ いや気がさす
 - × 置いてきぼり ↓ ○ 置いてけぼり
 - × 思いもつかない ↓ ○ 思いもよらない
 - × 恩を着せる ↓ ○ 恩に着せる
 - × きずなを深める ↓ ○ きずなを強める
 - × 体調をこわす ↓ ○ 体調をくずす
 - × 取りつくひまもない ↓ ○ 取りつくしま(鳥)もない
 - × 熱にうかさる ↓ ○ 熱にうかされる
 - × 念頭に入れる ↓ ○ 念頭に置く
 - × 的を得る ↓ ○ 的を射る
- ・まちがえて覚えやすいことは
- × コミュニケーション ↓ ○ コミュニケーション
 - × バッグを手に持つ ↓ ○ バッグを手に持つ
 - × 「バック」は「後ろ」、
「バッグ」は「かばん」のこと
 - × ふいんき ↓ ○ ふんいき (雰囲気)

・敬語^{けいご}

次のようなまちがえに注意が必要です。

×おっしゃられる(二重敬語) ↓ ○おっしゃる

×ご注意ください ↓ ○ご注意ください

*ふさわしくない表現を書き直して、正しい文にしましょう。

▽解答例はP
146

① 思いもつかない方法でまだ未解決の事件を解決した。

② 先生が教えてくれたので、ひとつのことはできるようになった。

③ 手さげのバックをじさんするように伝言を伝えておいた。

④ 的を得た答えを書くのはなかなかおぼつかしいということに気づいた。